

フタモンマダラメイガ

○被害と発生生態

被害樹種は、カキ、クリが比較的古くから知られているが、平成2年頃にリンゴ、平成11年にナシ、平成19年にブドウ、モモ、スモモ、平成23年にブルーベリーでの被害が確認され、全国各地で果樹の被害が急速に広がっている。

主に枝幹が加害される。幼虫が粗皮下に食入して、形成層を食い荒らす。被害部位は黒変し、糸でつづられた虫糞が見える。被害は枝の分岐部、太枝の剪定癒合部に多い。ひとたび食入を受けた樹は集中的に産卵、加害され、樹勢が低下する。

また、ナシ、リンゴでは果実にも食入し、シンクイムシ類と同様の被害を出す。被害は有袋栽培でも発生する。

成虫は開張15mm前後。前翅は紫褐色で細長く、灰褐色の波状の2本の横帯が走る。後翅は一様に灰褐色。口器の下唇鬚(かしんしゅ)は牙状に上方に曲がる。若齢～中齢幼虫は乳白色、老齢幼虫は緑色を帯びた淡褐色で体長は13mm程度に達する。

○防除方法

(ア) 耕種・物理的防除

- ・虫糞が噴出している部位の粗皮削りを行い、幼虫、蛹を捕殺する。
- ・被害の激しい樹は、早めに伐採し、適切に処分する。
- ・被害果実は水漬け等により適切に処分する。

(イ) 薬剤防除

フェニックスフロアブルで7月中旬と9月上中旬の2回防除を行う。



主枝の被害（粗皮下が食害され多量の虫糞が出ている）



成虫



蛹（粗繭）



老齢幼虫